

第15回 安全衛生大会



令和7年9月24日(水)開催
[会場] 横浜市開港記念会館 講堂

参加者
77名

1. 開会 主催者挨拶



公益社団法人 神奈川県産業資源循環協会
会長 藤枝 慎治



安全衛生協議会議長
金田 勝俊

2. 労働安全衛生標語の優秀作品表彰式

最優秀賞

「おかしいな 違和感あったら 即確認」
株式会社三凌商事 倉上 亜李沙様の作品

「点検は 未来の安心 ヨシ確認」
株式会社カナダ 藤尾 豊様の作品

優秀賞

「慣れた作業 思わぬところに落とし穴 基本に戻って 安全確認」
株式会社加瀬興業 近藤 勉様の作品

「声掛けて、安全確認 事故回避 日頃の気配り 災害ゼロへ」
株式会社出羽商会 有元 礼人様の作品



「労働安全衛生標語」受賞された方々

3. 講演

講演 1：「産業廃棄物処理業における労働災害発生の現状について」

● 災害発生の現状

- 死亡事故** [全 国] 減少傾向
[神奈川] 昨年3件、過去最多
- 休業災害** [全 国] 増加傾向
[神奈川] 年間 100 ～ 120 件
- 事故の型** 全産業と異なり「挟まれ・巻き込まれ」の割合が高い。

● 具体的な災害事例と強化された防止策

- 墜落** 屋根上作業では歩み板の使用や墜落防止用器具の徹底。
- 巻き込まれ** コンベヤーにはカバーの設置、非常停止装置の活用、一人作業の回避。
- 挟まれ** 可動部には機械的ストッパーの使用や「作業中の明示」による誤操作防止。

● 熱中症対策と今後の制度動向

- 対策** 50代が多く発症。事業者は WBGT（暑さ指数）を基準に対応フローの明確化を義務付けられている。
- 法改正等**
 - ① R8.4 ～ 個人事業主を含め現場全体への安全指導・連絡調整が要となる。
 - ② 50 人未満の事業場でもストレスチェックが義務化予定。
 - ③ 化学物質管理における SDS 交付の履行強化。



講師

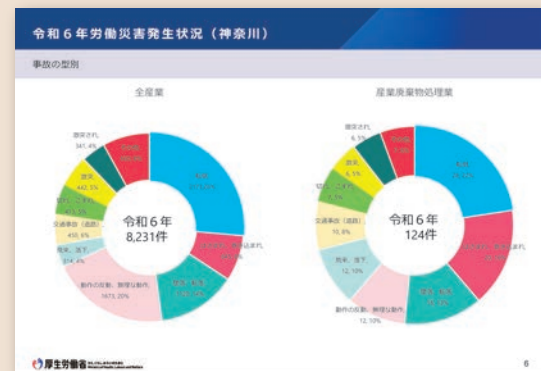
神奈川労働局 労働基準部 安全課
安全専門官 原田 朗功氏



● 要請事項

求められるもの

機械災害（挟まれ・巻き込まれ）対策の重点的強化、労災防止マニュアルの活用、安全教育への取組みを徹底。



講演 2：「初歩の労働防止マニュアル（第4版）」について

二階堂氏による講演では、マニュアルを基に労災防止の基本用語の定義から、最近の法改正に伴う安全対策の強化点、必要な資格などについて解説。

● 基本用語の定義

事故、災害、労働災害などの意味について説明。

● 法改正と安全対策の強化

貨物自動車の安全対策強化

対象 最大積載量2トン以上の貨物自動車

義務化 昇降設備の設置。作業床面の高さが地上2メートル以上ある場合は、手すりの設置。保護帽（ヘルメット）の着用。

背景 トラックの荷台からの飛び降り・飛び乗りによる足の骨折事故が多発しているため。

● 化学物質管理者・保護具着用管理責任者の選任義務化

対象 清掃用洗剤など、製造業以外でも化学物質を取り扱う多くの企業。

選任方法 専門的な講習の受講は不要で、会社が指名すれば選任可能（製造を行う事業場を除く）。

候補者 衛生管理者、安全管理者、安全衛生推進者など。特に安全衛生推進者は実務経験があれば比較的容易に選任できる。



講師

（一社）日本労働安全衛生コンサルタント会
二階堂 久氏

● 電子申請の義務化（2024年1月施行）

- 労災申請の電子化が義務付け。
- 電子申請時、産業廃棄物処理業は「サービス業」に分類されるため留意が必要。

● 職場における熱中症対策の強化（2024年6月施行）

求められる4つの観点：作業環境管理、作業管理、健康管理、労働者教育。

注意点

頭痛が発生した場合は速やかに医療機関を受診。#7119（救急医療相談）や水道水散布法による体温冷却も紹介された。

● 重要事項と情報収集

産業廃棄物処理業における必要資格について、労災マニュアルに掲載されている資格一覧を推奨。特別教育が必要な操作でも、資格なしで作業している場合が見受けられた。

また、化学物質のリスクアセスメントとマニュアルの活用やSDS（安全データシート）の適用法令欄での確認などについて説明。